

- IV 平成 30 年度農業普及関係
各種表彰事業受賞者概要**
- V 平成 30 年度農業改良普及
事業関係主要行事実施状況**
- VI 平成 30 年度各農業改良普
及センターのプロジェクト
課題一覧**
- VII 平成 30 年度普及指導課題
対象農業者満足度調査結果
の概要**

IV 平成30年度農業普及関係各種表彰事業受賞者概要

1 農事功績者表彰

主催 公益社団法人 大日本農会

趣旨 農業における新しい技術や経営の改善に挑戦し、優れた農業経営を確立するとともに、地域のリーダーとして、技術の導入・普及、産地の形成、青年農業者の育成等、地域農業の発展に貢献されてきた農業者並びに農業技術の普及・研究開発に寄与された方々に対し、総裁（秋篠宮文仁親王殿下）の御名をもって表彰を行い、賞章等を授与する。

◎ 緑白綬有功章

山村 喜久夫 氏（栗原市） 経営部門：水耕野菜・稲作複合経営

<活動の概要>

県内で先行して水耕栽培に取り組み、地域をけん引する大規模水耕野菜生産法人「有限会社耕佑」を設立。20年にわたり安定した収益を確保し、同時に地域からの周年雇用体制を確立した。平成26年にはGLOBALG.A.P.認証を取得し、従業員の意識向上や品質向上の成果が販路拡大に結びついている。地元社会福祉法人や支援学校から障がい者の受入も行うなど、中山間地での貴重な就業の場となっている。

高齢化や担い手不足に対応するため、集落営農組織の設立や「農事組合法人ファーム南栗原」への再編に尽力し、地域の6割の水田集積や新規露地園芸品目の導入など地域農業の維持・発展に貢献している。

地域内外からの視察受入や県主催研修会での講演などを通じ、長年にわたり担い手及び農業法人の育成に貢献している。

2 宮城県農林産物品評会

主催 宮城県

趣旨 農業者の生産意欲の高揚と生産技術の向上を図り、農林産物の生産振興に寄与することを目的とし、県内の生産者から出品された農林産物を審査し、優秀な出品物生産者に対し農林水産大臣賞等を授与し表彰する。

期日 平成30年10月20日～21日

場所 県庁1階フロア、市民広場前ステージ

◎宮城県知事賞

知事賞1等賞

(敬称略)

| 部門 | 品目 | 市町村 | 受賞者氏名 |
|------|-------|-----|----------|
| 普通作物 | うるち玄米 | 栗原市 | 有限会社狩野農友 |
| 果実 | 日本なし | 蔵王町 | 平間裕喜 |
| 〃 | りんご | 栗原市 | 佐々木繁 |
| 根菜類 | だいこん | 大崎市 | 高橋純哉 |
| 葉茎菜類 | ねぎ | 栗原市 | 片倉栄治 |
| 果菜類 | きゅうり | 登米市 | 山内勉 |
| 林産物 | 生しいたけ | 登米市 | 高橋龍朗 |

| | |
|--------|-----|
| 知事賞2等賞 | 11名 |
| 知事賞3等賞 | 12名 |

◎農林水産大臣賞，農林水産省生産局長賞等特別賞受賞者

(敬称略)

| 区 分 | 部 門 | 品 目 | 市 町 村 | 受賞者氏名 |
|---------------------------------------|-------|--------|---------|---------------|
| 農 林 水 産 大 臣 賞 | 米 | うるち玄米 | 栗 原 市 | 有限会社狩野農友 |
| | 果 実 | 日本なし | 蔵 王 町 | 平 間 裕 喜 |
| | 野 菜 | きゅうり | 登 米 市 | 山 内 勉 |
| | 林 産 物 | 生しいたけ | 登 米 町 | 高 橋 龍 朗 |
| 農 林 水 産 省 生 産 局 長 賞 | 果 実 | りんご | 栗 原 市 | 佐々木 繁 |
| | 野 菜 | ねぎ | 栗 原 市 | 片 倉 栄 治 |
| 農 林 水 産 省 政 策 統 括 官 賞 | 米 | うるち玄米 | 登 米 市 | 佐 藤 幸 治 |
| 農 林 水 産 省 林 野 庁 長 官 賞 | 林 産 物 | 生しいたけ | 仙 台 市 | 富 田 久 真 |
| 宮 城 県 農 業 協 同 組 合 中 央 会 長 賞 | 米 | うるち玄米 | 登 米 市 | 佐々木 礼 藏 |
| 公 益 社 団 法 人 み や ぎ 農 業 振 興 公 社 理 事 長 賞 | 米 | うるち玄米 | 栗 原 市 | 岩 淵 幸 夫 |
| 宮 城 県 園 芸 協 会 会 長 理 事 賞 | 果 実 | 日本なし | 蔵 王 町 | 齋 藤 秀 俊 |
| | 野 菜 | だいこん | 大 崎 市 | 高 橋 純 哉 |
| | 野 菜 | ほうれんそう | 色 麻 町 | 片 倉 ヨ ウ |
| | 野 菜 | ト マ ト | 栗 原 市 | 有限会社サンアグリしわひめ |
| 宮 城 県 食 用 茸 協 同 組 合 理 事 長 賞 | 林 産 物 | 生しいたけ | 仙 台 市 | 熊 谷 幸 夫 |
| 宮 城 県 森 林 組 合 連 合 会 長 賞 | 林 産 物 | 生しいたけ | 登 米 市 | 高 橋 龍 一 |
| 宮 城 県 林 業 振 興 協 会 会 長 賞 | 林 産 物 | 木 炭 | 南 三 陸 町 | 佐 藤 勇 |
| 宮 城 県 特 用 林 産 振 興 会 長 賞 | 林 産 物 | 生しいたけ | 丸 森 町 | 加 藤 通 明 |

3 宮城県花き品評会

主 催 宮城県花と緑普及促進協議会，宮城県

趣 旨 宮城県の花き生産技術の向上及び生産意欲の喚起を図り，市場評価の向上及び消費者等の理解を深めることを目的とし，県内の生産者から出品された花きを審査し，優秀な出品物生産者に対し農林水産大臣賞等を授与し表彰する。

期 日 平成 30 年 10 月 20 日～ 21 日

場 所 県庁 1 階フロア，市民広場前ステージ

◎農林水産大臣賞，農林水産省生産局長賞等特別賞受賞者

(敬称略)

| 受賞名称 | 品 目 | 市 町 村 | 受賞者氏名 |
|---|-------------------|---------|---------|
| 農 林 水 産 大 臣 賞 | 輪 ぎ く | 石 巻 市 | 高 橋 エリカ |
| 農 林 水 産 省 生 産 局 長 賞 | 輪 ぎ く | 石 巻 市 | 佐 藤 勝 彦 |
| 東 北 農 政 局 長 賞 | ば ら | 加 美 町 | 鈴 木 義 英 |
| 宮 城 県 知 事 賞 | シ ク ラ メ ン | 石 巻 市 | 亀 山 晴 央 |
| 宮 城 県 議 会 議 長 賞 | ビ オ ラ | 多 賀 城 市 | 佐 藤 敏 充 |
| 仙 台 市 長 賞 | トルコギキョウ | 仙 台 市 | 佐 藤 繁 啓 |
| 宮 城 県 園 芸 協 会 会 長 理 事 賞 | ス プ レ ー ぎ く | 大 崎 市 | 佐 藤 典 子 |
| 全 国 農 業 協 同 組 合 連 合 会 宮 城 県 本 部 長 賞 | ガ ー ベ ラ | 石 巻 市 | 佐 藤 幸 喜 |
| 宮 城 県 花 卉 商 業 協 同 組 合 理 事 長 賞 | ポ ッ ト マ ム | 柴 田 町 | 平 間 明 夫 |
| 仙 台 中 央 卸 売 市 場 花 卉 仲 卸 協 同 組 合 理 事 長 賞 | ガ ー デ ン シ ク ラ メ ン | 石 巻 市 | 佐 藤 昇 |
| 仙 台 生 花 (株) 代 表 取 締 役 賞 | ば ら | 加 美 町 | 鈴 木 義 英 |
| (株) 仙 花 代 表 取 締 役 社 長 賞 | シ ク ラ メ ン | 石 巻 市 | 亀 山 晴 央 |
| (株) 石 巻 花 卉 園 芸 代 表 取 締 役 社 長 賞 | 輪 ぎ く | 石 巻 市 | 高 橋 エリカ |

※上記受賞者は金賞として宮城県花と緑普及促進協議会会長賞を受賞，ほか銀賞として 20 名が受賞

4 農業・農村活性化女性グループ等表彰

主催 宮城県

趣旨 農業・農村の活性化や女性の参画推進、次世代リーダーとなり得る若手女性農業者の参入等、女性活躍推進のために積極的に活動している個人・グループを表彰し広く周知することにより、農業者はもとより農業後継者や県民にとっても魅力ある農業・農村を創造しようとするもの。

起業活動部門 ◎ 最優秀賞 高橋 順子 氏 (大崎市)

<活動の概要>

本年度開業 20 年周年を迎える農産物直売所「旬の店シンフォニー」の立上げに尽力、消費者交流や食育活動など、生き活きとした活動を展開し、運営を軌道に乗せてきた。

平成 26 年からは自家産米粉を活用したロールケーキやシフォンケーキを製造し、6 次産業化及び地域農業の推進役として活躍、直売所の売上に大きく貢献した。米粉と出会い、米粉を核とした起業活動において、自己を研鑽しながら様々な商品開発にチャレンジしてきたその取組は、他への波及効果も期待できると高く評価された。

地域活動では、19 年間の長きにわたり宮城県農業士を務め、県農業士会副会長を歴任するなど県農業振興に大きく貢献したほか、宮城県生活研究グループ連絡協議会会長として、県内女性農業者の交流活性化、平成 27 年からは大崎市農業委員に就任し、女性の共同参画社会推進に貢献している。

地域社会参画部門 ◎ 最優秀賞 ビーンズくらぶ (南三陸町)

<活動の概要>

南三陸町入谷地区集落で高齢化による遊休農地の発生や拡大を少しでも解決しようと、平成 21 年に地域の女性 6 人が名前の由来となる枝豆、大豆等の栽培を始めた。さらに、生産した大豆を活用し、きなこ、納豆を皮切りに、現在は豆腐と総菜加工（弁当）まで製造を拡大したほか、農業体験、手づくり豆腐作り体験なども企画し実施している。製造した加工品や農業体験を求めて、遠方からの訪問客が増加し、集落の活性化につながっている。この生き活きと取り組んでいる姿勢は集落で認知され、地域の旗振り役として活躍している。

利益の追求よりも地域のため、また、自身や仲間のために継続していることが「むらづくり活動」そのものとして息づいており、これから後に続く地域の女性たちのロールモデルとなり得ると高く評価された。

若手女性チャレンジ部門 ◎ 最優秀賞 酪農ガールズ (蔵王町)

<活動の概要>

若手女性酪農家が気軽に集まれる場を求め、平成 22 年に 8 名で酪農を学ぶためのグループ『酪農ガールズ』を立ち上げた。

『賢くかわいい女性酪農家』を念頭に、技術研鑽だけでなく、趣味や教養講座も企画。「子連れでの研修会参加可」など、女性ならではの新たなグループのあり方を構築。例を見ないグループのあり方に全国からも注目されている。最大の目的は「幅広い仲間づくり」であり、県内全域から女性酪農関係者の参加が増えている。

同じ酪農家の女性として仲間に入りたくくなるような活動を展開しており、今後も畜産業界の女性をリードしてだけでなく、農業における男女共同参画社会の土台づくりとして、大きな勢いと将来性を感じるグループであると高く評価された。

地域社会参画部門 ◎ 優秀賞 山崎 仁子 氏 (東松島市)

<活動の概要>

東松島市北赤井地区で、初めての消費者交流となる「大根狩り」の中心人物として16年間活躍。東松島市北赤井地区フラワーロード推進委員会会長として地域の緑化や景観の美化活動を牽引。その活動は現在も好評なまま長きにわたって継続している。

また、農業のみならず、教育や福祉の面にも活動を広げており、女性が核となった安定したむらづくり活動として、今後さらに新たな展開や他への波及効果が期待されると評価された。

経営参画部門 ◎ 優秀賞 八巻 静 氏 (岩沼市)

<活動の概要>

従来からの施設トマト部門に加え、露地野菜にも挑戦し、会社全体が地域の担い手として活躍している。津波により被災しながらも、自ら施設園芸部門を担当し、規模拡大・6次産業化で地域農業を牽引している。

また、従業員の家庭環境にも配慮しながら何でも言い合える職場づくりを心がけ、女性が働きやすい就業環境を整備し、従業員の定着率が高い。

今後、加工品の事業化、就業規則等の明文化により、将来的に大きな経営進展が期待できる伸びしろを持った経営体として評価された。

5 宮城県農村教育青年会議

| | |
|-----------|---|
| 共催 | 宮城県、宮城県農村青少年クラブ連絡協議会、公益社団法人みやぎ農業振興公社 |
| 趣旨 | 地域農業の中核として日頃農業の改良と生活の改善に努めている青年農業者が、4Hクラブ活動を通じて得た成果を互いに情報交換し、当面する問題の解決方法を探るとともに、新しい農業と農村の発展方向を見いだす。 |
| 期日 | 平成31年2月2日 |
| 場所 | エスポールみやぎ(仙台市宮城野区) |

【プロジェクト発表】

◎最優秀賞：宮城県知事賞 結城 翔平氏(大崎地区連)

課題名：「働き方改革 ネギ部門の省力化」

発表要旨：ねぎの規模拡大により労働時間の削減が必要になってきたため、省力化につながる3つの調査を行った。①施肥回数の省力化のためのロング肥料の検討、②追肥方法の省力化のための追肥機の検討、③防除の省力化のためのトラクターブームの検討を行い、省力化の効果を調査した。

その結果、①ロング肥料の使用により作業時間を省力化でき、②新しい追肥機を導入することで作業時間と人件費を削減でき、③トラクターブームを導入することで作業時間と人件費を削減できた。

考察として、①施肥回数の効率化では、ロング肥料区では1mmほど細くなり、白根が3cmほど長くなった。しかし、うちの出荷規格では金額に影響が出る差ではないので、使用に問題はなかった。②追肥方法の省力化では、ねぎが大きくなってくると葉が追肥機にぶつかり散布ができないため、散布可能な時期までに追肥を終わらせるように管理する必要がある。また、土くずしを行っていないと足場が不安定になり、追肥機が思うように走行できないため、ロング肥料を使いながら散布可能な時期に追肥を終わらせる必要があることが分かった。③防除の省力化では、30条ごとにトラクターが走行可能な幅の道を作らなければいけなくなり、栽培条数が少なくなったが、年々高齢化の影響で畑を頼まれるため、影響はないと考えられる。トラクターへの作業機の脱着に手間がか

かり大変だが、散布面積の拡大によりカバーできると考えられる。

経営への導入効果としては、人件費を73%削減できるので、規模拡大に向けて機械や道具を導入する資金を確保できる。

今後の展望としては、調製出荷作業の省力化の検討、収穫機の導入の検討、経営全体の経費を試算していきたい。今後、機械や肥料などをうまく導入していき、品質を低下させずに規模拡大を行っていきたい。

【農村青年の主張】

◎最優秀賞：宮城県知事賞 笠原 怜氏（大崎地区連）

課題名：嫌いな養鶏

発表要旨：大崎市古川で非農家で育った私が農業を始めて7年になります。経営状況として養鶏6000羽、水稲2.5ha、また自社の卵と米を活用した食堂も行っています。私が思うこれからの農業は祖父母や先代がやってきた農業、「農地を守る」だけではないかと思ひ新しい事にも取り組んできました。

そこで新規部門の開拓として園芸品目に取り組みました。しかしながら、祖父母の高齢化が進む中で養鶏の作業に携わる時間が多くなり、園芸部門の継続が難しくなりました。元々園芸をやろうと思ったきっかけは養鶏が嫌いだからです。私は時間を縛られるのが嫌いです。しかし、お客さんと話すことで商売へのモチベーションが上がりました。

一方で、今は物が溢れている時代です。スーパーに行っても数多くの卵が売っています。だからこそ勝負をしていくために他とどう違うのか考える必要があります。そこで、自社の経営を見つめ直し、次の三つの事に取り組みました。

一つ目、生産管理を徹底する。一目で把握できる生産管理シートを作成し、これにより無駄な羽数を減らし経費も抑えられます。

二つ目、食堂や加工品での売上アップを図る。自社の卵を知っていただく事でリピーターを獲得する。また、卵を生産する上でロスが出ます。これを有効活用した商品開発にも取り組みました。

三つ目、労働時間の見直しをする。1年を通して作業時間を把握し作業効率を高めていきます。

近年農業を取り巻く環境は変化し、厳しいと言われてはいますが工夫しだいでは無限の可能性のある産業だと思います。養鶏は嫌いですがまずは経営の土台を養鶏で今まで以上に強くしていきたいです。強くする事で次なる投資もできるようになります。これからも農業を勉強し、チャレンジ精神を強く持ち、仲間作りを大切に、環境の変化にも対応できる強い経営者を目指していきたいです。将来的には今ある養鶏、米、畑で循環型農業を目指し、稼げる経営者になります。

V 平成 30 年度農業改良普及事業関係主要行事実施状況

- (1) 行事名 宮城県農業士退任者感謝状贈呈式及び認定証交付式
会 期 平成 30 年 6 月 7 日
場 所 宮城県庁講堂
主 催 宮城県
内 容 退任者への感謝状贈呈，新規認定者への認定証交付
- (2) 行事名 平成 30 年度普及指導員調査研究検討会
会 期 平成 30 年 7 月 3 日
場 所 宮城県自治会館 205・206 会議室
内 容 調査研究の成果の発表，協同農業普及事業について
- (3) 行事名 平成 30 年度宮城県農村青年のつどい
(第 64 回宮城県農村青少年技術交換大会)
会 期 平成 30 年 7 月 21・22 日
場 所 白石市内ほか
主 催 宮城県農村青少年クラブ連絡協議会，宮城県，(公社)みやぎ農業振興公社
内 容 農業技術競技，レクリエーション，現地研修
- (4) 行事名 宮城県農林産物品評会
会 期 平成 30 年 10 月 20・21 日
場 所 宮城県庁 1 階フロア・市民広場前ステージ
主 催 宮城県
内 容 県内優秀農林産物の展示及び表彰
- (5) 行事名 2019 農山漁村パートナーシップ推進宮城県大会
(平成 30 年度農山漁村女性の日宮城県大会)
会 期 平成 31 年 1 月 29 日
場 所 多賀城市文化センター
主 催 宮城県
共 催 宮城県生活研究グループ連絡協議会，JA みやぎ女性組織協議会，宮城県漁協女性部連絡協議会，みやぎアグリレディス 21
内 容 講演，農業・農村活性化女性グループ等表彰式，農山漁村女性の活動発表
- (6) 行事名 平成 30 年度宮城県農村教育青年会議
会 期 平成 31 年 2 月 2 日
場 所 仙台市 エスポールみやぎ
主 催 宮城県農村青少年クラブ連絡協議会
共 催 宮城県，(公社)みやぎ農業振興公社
内 容 プロジェクト発表・農村青年の主張 他
- (7) 行事名 第 40 回宮城県農業普及活動検討委員会
会 期 平成 31 年 2 月 5 日
場 所 宮城県自治会館 209 会議室
内 容 宮城県の農業改良普及事業の推進について
- (8) 行事名 平成 30 年度農業普及・試験研究連携活動研究会
会 期 平成 31 年 2 月 22 日
場 所 宮城県庁講堂・みやぎ広報室・第二入札室
内 容 平成 30 年度普及活動実績，国主催研修報告（伝達研修），試験研究技術移転発表他

VI 平成30年度 各農業改良普及センターのプロジェクト課題一覧

| No. | 普及センター | 課題名 | 計画期間 | 対象名及び対象者数(波及対象・市町村等) | 進行管理担当班 | 担当者 |
|-----|--------|---|--------|---|---------|--|
| 1 | 大河原 1 | 集落営農法人の連携による経営発展 <「中間管理事業」「中山間地域振興」関連課題> | H30～32 | 丸森町大内地区集落営農法人 3法人 ・(農)羽山の里 佐野 役員10人 ・(農)伊手ファーム 役員11人 ・(農)西向ファームさく里 役員6人 (丸森町) | 地域農業第二班 | ◎大場,高田, 高橋(忠), 川勝 |
| 2 | 大河原 2 | そば生産を核とした集落営農システムの構築 <「中間管理事業」「中山間地域振興」関連課題> | H30～32 | 川崎町古閑地区 33戸 (川崎町) | 地域農業第一班 | ◎稲生,渋谷, 加藤,丹野 |
| 3 | 大河原 3 | 集落営農法人における6次産業化 <「中間管理事業」関連課題> | H30～32 | (農)下名生ファーム 役員9人 (柴田町) | 先進技術第二班 | ◎須藤,渋谷, 佐藤(一), 原田 |
| 4 | 大河原 4 | 道の駅直売施設での販売を契機とした農産物の生産拡大 | H30～32 | 角田市道の駅直売施設農産物出荷者協議会 農産部会・花き部会 95人 (角田市) | 先進技術第二班 | ◎今野,川勝, 増田,小室 |
| 5 | 大河原 5 | 白石市ブランド農産物の生産技術の充実による品質向上 | H30～32 | 宮城白石産ササニシキ復活プロジェクト 生産者9人 白石三白野菜等(とうもろこし, さといも, かぼちゃ, 菊芋)生産者30人 (白石市) | 先進技術第一班 | ◎佐藤(浩), 武田,加藤, 高橋(晋) |
| 6 | 大河原 6 | 集落ぐるみによる鳥獣害被害軽減対策の実践 | H30～31 | 蔵王町向山上地区 34戸 (蔵王町) | 地域農業第二班 | ◎高田,大場, 阿部 |
| 7 | 亘理 1 | 土地利用型作物を主体とした大規模モデル経営体の育成 <「中間管理事業」「GAP」「ICT」関連課題> | H29～30 | (農)玉浦南部生産組合,(農)林ライス (岩沼市) | 地域農業班 | ◎片岡,高橋, 大鷲,伊藤, 佐藤 |
| 8 | 亘理 2 | 大規模露地野菜経営の定着に向けた生産力の向上 <「中間管理事業」関連課題> | H30～31 | (株)やまもとファームみらい野,(農)いそはま (山元町) | 先進技術班 | ◎相花,齋藤, 菅野,西條, 山村 |
| 9 | 亘理 3 | 先進的技術の定着による園芸主力品目の収量向上 <「ICT」関連課題> | H30～31 | 環境制御あるいはIPM技術に取り組むいちご生産者29人(亘理町,山元町) きゅうり生産者6人(名取市,岩沼市) 山元いちご農園(株),(株)一苺一笑,(株)やまもとファームみらい野(山元町) | 先進技術班 | ◎菅野,伊藤, 相花,西條 |
| 10 | 亘理 4 | 地域と連携した新たな6次産業化の取組み推進 <「ICT」関連課題> | H29～30 | (株)今慶農産 (名取市) | 先進技術班 | ◎山田,齋藤, 安達,佐藤, 林 |
| 11 | 亘理 5 | 次世代の担い手となる新規就農者の売上確保 | H30～31 | 農業次世代人材投資事業(経営開始型) 対象者12人 (名取市,亘理町,山元町) | 地域農業班 | ◎安達,高橋, 片岡,大鷲 |
| 12 | 仙台 1 | 仙台東部における土地利用型農業法人の経営体質の強化 <「中間管理事業」関連課題> | H29～30 | (農)ファーム七ヶ浜(七ヶ浜町) (農)グリーンファーム松島(松島町) (農)岩切生産組合,(農)六郷南部実践組合,(農)せんだいあらはま(仙台市) | 先進技術第二班 | ◎高橋,及川, 菊地, 鈴木(智), 丹野,長田, 笹原, 鈴木(康), 小田中 |

| No. | 普及センター | 課 題 名 | 計画期間 | 対象名及び対象者数（波及対象・市町村等） | 進行管理担当班 | 担当者 |
|-----|---------|---|--------|---|---------|---|
| 13 | 仙台 2 | 省力化技術導入による大規模土地利用型 経営体の生産性向上 <「中間管理事業」関連課題> | H30～32 | みどりあーと山崎（株） （大郷町） | 先進技術第一班 | ◎長田，薄木， 大河原， 飯沼，高橋， 小田中 |
| 14 | 仙台 3 | 多様な担い手による園芸を軸とした中山 間地域農業の実現 <「中山間地域振興」関連課題> | H30～32 | 仙台西部根白石地区生産者 4人 （仙台市泉区） | 地域農業班 | ◎鈴木（智）， 泉澤， 佐藤（郁）， 佐藤（秀）， 漆山，服部 |
| 15 | 仙台 4 | 生産組織での新規作型の導入によるねぎ 作期拡大 | H30～30 | （農）いさござわ生産組合 （大和町） | 先進技術第一班 | ◎笹原，佐々木， 大河原，飯沼， 漆山，齋藤 |
| 16 | 仙台 5 | 安定供給が可能なブルーベリー産地及び 新たな果樹産地の育成 | H28～30 | 富谷市ブルーベリー生産者（うち改植， 新植実施者6人） 黒川郡ぶどう生産者（うち主要生産者5人） | 先進技術第二班 | ◎柴田， 佐藤（秀）， 鈴木（康）， 齋藤 |
| 17 | 大崎 1 | 中山間集落の活性化を支える地域営農体 制の構築 <「中間管理事業」「中山間地域振興」関連課題 > | H30～32 | 東鹿原集落営農組合 49戸 （加美町） | 地域農業班 | ◎小林， 佐藤（敏）， 小野寺，千葉， 大友 |
| 18 | 大崎 2 | 地域資源を活用した中山間地域での園芸 品目の生産拡大 <「中山間地域振興」関連課題> | H30～31 | あ・ら・伊達な道の駅花き部会 25戸 大崎市岩出山地域せり生産者 1戸，1法 人 | 先進技術班 | ◎水戸，小野寺， 猪苗代，石川， 門間，渡邊 |
| 19 | 大崎 3 | 水稲種子生産における周辺環境対策と管 理体制の構築 <「GAP」関連課題> | H29～30 | いわでやま水稲採種組合 一栗・岩出山地区組合員 14人 | 先進技術班 | ◎佐藤（浩）， 門間，阿部， 福土，松原 |
| 20 | 大崎 4 | 青年農業者の安定した営農に向けた経営 力の向上 | H29～30 | 園芸品目を生産する青年農業者 5人（4 戸） （大崎市） | 地域農業班 | ◎増田， 佐藤（敏）， 猪苗代，穴戸 |
| 21 | 美里 1 | 地域農業の維持・発展に向けた集落営農 組織の法人化 <「中間管理事業」関連課題> | H30 | 中田営農生産組合 和多田沼営農組合 （美里町） | 地域農業班 | ◎平，横田， 伊藤 |
| 22 | 美里 2 | 法人経営体における第三者認証 GAP の導 入・定着 <「GAP」関連課題> | H30～31 | （有）グリーンウェーブ南郷（美里町） （株）こうだいらプランテ（大崎市鹿島台） （有）氏家農場（涌谷町） （有）マルセンファーム（大崎市鹿島台） | 地域農業班 | ◎狐塚，横田， 千葉，渡邊 |
| 23 | 美里 3 | 「金のいぶき」の導入・定着化による地域 ブランド米の確立 | H30～31 | 金のいぶき栽培者 12人 （涌谷町） | 先進技術班 | ◎西條，遠藤， 伊藤，曾根 |
| 24 | 美里 4 | 青ねぎの栽培技術定着による生産性の向上 | H30～31 | （株）みどりのみらい（美里町） （農）21世紀（涌谷町） | 先進技術班 | ◎小島，西條， 狐塚，鈴木 |
| 25 | 栗原 1 | 農地整備を契機とした集落営農モデルの 再構築 <「中間管理事業」関連課題> | H30～31 | 八木営農組合 役員11人 （栗原市若柳地区） | 地域農業班 | ◎三上，鹿野， 寺島，早坂， 宮本 |
| 26 | 栗原 2 | 中山間地域における小果樹類の生産性向 上及び新商品開発 <「中山間地域振興」関連課題> | H30～32 | 小果樹類生産者 6経営体 ドリームファーム岩下 構成員6人 （栗原市花山・一迫地区） | 地域農業班 | ◎寺島，門脇， 佐々木， 小野寺，佐藤， 内藤 |

| No. | 普及センター | 課 題 名 | 計画期間 | 対象名及び対象者数（波及対象・市町村等） | 進行管理担当班 | 担当者 |
|-----|---------|--|--------|--|---------|------------------------------------|
| 27 | 栗原 3 | 新技術導入による大豆の収量・品質の高位安定化 | H29～30 | (農) iファーム 大豆生産農家 1人 (栗原市志波姫地区) | 先進技術班 | ◎宮本,堀内, 佐々木,早坂, 小野 |
| 28 | 栗原 4 | ズッキーニの安定生産と産地の育成 | H28～30 | J A 栗っこズッキーニ部会 役員 8人 展示ほ担当農家 4人 (栗原市) | 先進技術班 | ◎降幡,鈴木, 菅原,佐藤, 稲垣,内藤 |
| 29 | 栗原 5 | 新規就農者の基本技術習得と就農モデル経営体の確立 | H30～31 | 認定新規就農者 4経営体 (5人) (栗原市) | 地域農業班 | ◎小野寺,鹿野, 三上,降幡, 小野,稲垣 |
| 30 | 登米 1 | 円滑な次世代継承を目指した法人経営の安定化 <「中間管理事業」関連課題> | H29～30 | (有)かわつらグリーンサービス(登米市市田) (農)SK 美野里農産(登米市米山) | 地域農業班 | ◎小山,齋藤, 植松,八木, 小笠原 |
| 31 | 登米 2 | きゅうり産地の持続的発展に向けた組織体制強化及び新規就農者等の育成 <「ICT」関連課題> | H29～30 | J A みやぎ登米きゅうり生産者連絡協議会 役員 14人, 新規就農者等 13人 (登米市) | 先進技術班 | ◎高橋,狩野, 八木,後藤, 小笠原,今野 |
| 32 | 登米 3 | 土地利用型作物の長期的な安定生産に向けた先進的技術の導入と定着 | H29～30 | 豊里転作集団連絡協議会 9法人 (中央生産組合,下町生産組合,オグリ生産組合, 二ツ屋生産組合,大曲生産組合, 長根生産組合,T Mファーマーズ,加々巻生産組合, ときなみファーム) (登米市) | 先進技術班 | ◎猪野,佐藤, 佐々木,山家, 門間,杉本 |
| 33 | 石巻 1 | 被災沿岸部の大規模経営体における経営の安定化 <「中間管理事業」関連課題> | H29～31 | (株)ばるファーム大曲 (株)めぐいと (株)サンエイト (農)奥松島グリーンファーム (東松島市) | 地域農業班 | ◎神崎,田中, 小山,工藤, 木村 |
| 34 | 石巻 2 | 先進的園芸経営体の育成 <「GAP」「ICT」関連課題> | H28～32 | (株)イグナルファーム (株)アグリ・パレット (株)スマイルファーム石巻 (株)デ・リーフデ北上 (石巻市) | 先進技術第二班 | ◎佐藤(篤), 宍戸,志賀, 鈴木(俊), 佐々木 |
| 35 | 石巻 3 | 先進技術を活用したいちご産地のステップアップ <「ICT」関連課題> | H29～31 | JA いしのまきいちご生産組合(石巻母 生産組合,やもといちご生産組合,河南 いちご生産組合) いちご生産法人(いちごランド石巻, イグナルファーム,アグリ・パレット, サンエイト) (石巻市,東松島市) | 先進技術第二班 | ◎志賀,宍戸, 神崎, 鈴木(俊), 佐藤(聖) |
| 36 | 石巻 4 | 拡大する復旧農地を担う大規模農業法人の経営力強化 | H30～31 | (株)宮城リスタ大川 (石巻市) | 先進技術第一班 | ◎鶴飼,阿部, 鈴木(剛), 佐藤(篤), 伊藤 |
| 37 | 石巻 5 | 水稲直播栽培の技術定着による稲作経営体の経営強化 | H29～30 | (有)サンダーファーム牛田 (農)ゆいっこ (農)ビッグベリーランドパートナーシップ (農)たてファーム・和 (有)アグリードなるせ 個別経営体(石巻市,東松島市) | 先進技術第一班 | ◎阿部, 佐藤(元), 工藤,木村, 浅野 |
| 38 | 石巻 6 | 経営の発展段階に応じた農業法人の育成 | H29～30 | (農)大地大沢 (農)朝日の郷 (農)パラダイスファーム大番所 (石巻市) | 地域農業班 | ◎鈴木(剛), 田中, 佐藤(元), 小山 |

| No. | 普及センター | 課 題 名 | 計画期間 | 対象名及び対象者数（波及対象・市町村等） | 進行管理担当班 | 担当者 |
|-----|----------|--|--------|---|---------|--------------------------------|
| 39 | 気仙沼 1 | 気仙沼陸上地域の新たな農業の展開 <「中間管理事業」関連課題> | H29～30 | シーサイドファーム波路上（株） （気仙沼市） | 地域農業班 | ◎千葉， 佐藤（直）， 佐藤（康）， 亀井 |
| 40 | 気仙沼 2 | 集落営農組織の経営体質強化による地域 営農体制の構築 <「中間管理事業」関連課題> | H29～30 | 西戸川地区営農組合 11人 在郷営農組合 11人 廻館営農組合 14人 （南三陸町） | 地域農業班 | ◎阿部， 佐藤（直）， 亀井， 佐藤（正） |
| 41 | 気仙沼 3 | 環境モニタリングデータ活用及び IPM 導 入によるいちごの収量向上 <「ICT」関連課題> | H30～31 | 階上いちご復興生産組合 3人 階上いちご第2復興生産組合 3人 （気仙沼市） | 先進技術班 | ◎福原，早坂， 安藤，小野寺 |
| 42 | 気仙沼 4 | 食用桑の安定生産による特産品の定着 <「中山間地域振興」関連課題> | H30 | 大唐桑栽培愛好会 27人 （気仙沼市） | 先進技術班 | ◎佐藤（康）， 佐藤（郁）， 千葉，安藤 |
| 43 | 気仙沼 5 | 復旧農地でのねぎ安定生産技術の確立 | H29～30 | 在郷営農組合畑作班 （南三陸町） | 先進技術班 | ◎早坂，福原， 阿部， 佐藤（郁） |

Ⅶ 平成30年度普及指導課題対象農業者満足度調査結果の概要

<調査方法>

1 目的

県内の9つの普及センターごとに地域や農業者の方々を対象として支援ニーズを調査し、今後の農業改良普及事業に反映させるために実施。

2 調査時期と方法

○調査時期：平成30年11月～12月

○調査方法：アンケート形式で普及指導員が直接調査票を配布・回収（一部郵送による）。なお、回収に際しては個人情報に配慮し、厳封の上回収した。

調査は包括的な結果の把握を目的とし、個人を特定しない方法で実施。

3 調査の対象者

○普及指導計画のプロジェクト課題対象農業者とし、今回の調査では233人に対し実施。

○普及センター別は、大河原44人、亘理19人、仙台26人、大崎22人、美里20人、栗原24人、登米16人、石巻22人、気仙沼40人。

4 対象者の属性

○全調査対象者数233人中、認定農業者は154人。

○所得第1位の部門

稲作105人、麦・大豆13人、野菜68人、畜産5人、花き5人、果樹13人、直売・加工12人、その他5人、無回答7人。

○年齢構成

30才以下9人、31～40才20人、41～50才29人、51～60才43人、61才～70才108人、71才以上22人、無回答2人。

○経営の形態

法人83人、集落営農組織25人、任意組織4人、個別113人、その他5人、無回答3人。

<調査結果>

1 普及指導員の活動に対する期待度

○普及指導員の活動に対する期待度合いについて5段階評価で記入いただいた結果、「普及指導員の態度・熱意」の期待度が平均で4.47と最も高い結果となりました。

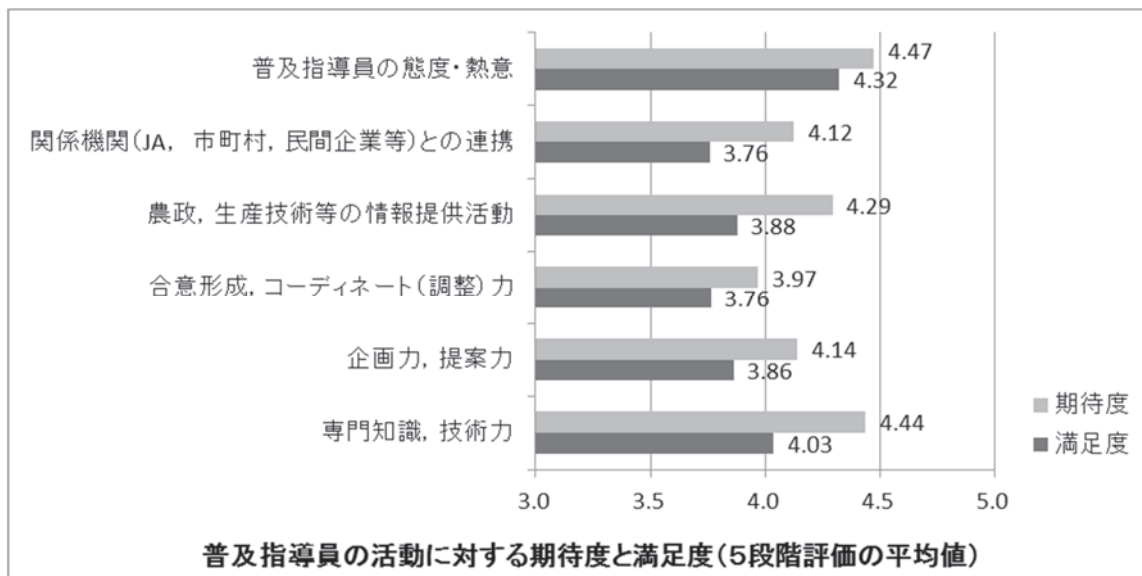
○次いで「専門知識・技術力」、「農政、生産技術等の情報提供活動」が上位となりました。

2 普及指導員の活動に対する満足度

○期待度に対して、実際に受けている普及活動の満足度合いについて5段階評価で記入いただいた結果、期待度の最も高かった「普及指導員の態度・熱意」の満足度が最も高い結果となりました。

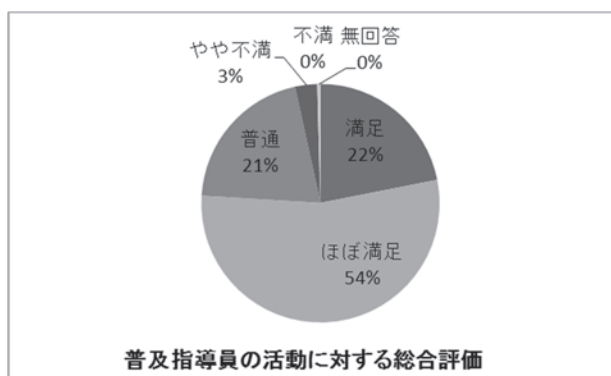
○次いで「専門知識・技術力」、「農政、生産技術等の情報提供活動」の順に高い結果となったが、他の項目と比較すると期待度に対して満足度の値が低く、改善が必要であることが分かりました。また、「関係機関との連携（JA、市町村、民間企業等）との連携」についても期待度に対して満足度がやや低い結果でした。

○属性別に集計したところ、「情報提供活動」については特に「30代以下」及び「41～50才」で期待度に対して満足度が低い傾向であることが分かりました。



3 総合評価

○全体の22%が「満足」と回答し、「ほぼ満足」と合わせると約4の3の回答者が満足しています結果となりました。



<今後の取組>

普及指導員の活動についての総合的な評価はおおむね高く、特に期待度が最も高かった「普及指導員の態度・熱意」については、農業者の方々の満足が得られているものと判断されました。一方で、「専門知識・技術力」や「農政、生産技術等の情報提供活動」、「関係機関（JA、市町村、民間企業等）との連携」は期待度に対して満足度がやや不足しており、まだまだ改善が必要であると思われました。OJTや専門分野別の研修等の実施により、普及指導員のスキル向上に向けた取組を強化していきます。

また、自由意見では104人の方々から励ましのお言葉や「巡回指導の頻度を増やしてほしい」、「生産技術や他地域の先進事例等をもっと情報提供してほしい」等の貴重なご提案をいただきました。今後さらに普及指導活動に対する満足度を高めるため、いただいたご意見等を真摯に受け止め、地域における関係機関との連携・調整を図りながら、一層の改善に努めていきます。

ご協力ありがとうございました。



普及活動標語

思いを形に、あなたのチャレンジ支えます。応援します。農業普及

ロゴマーク説明

宮城県の農業改良普及事業が農業発展の架け橋となることを願うとともに、アグリカルチャーの頭文字『A』をイメージしています。

明日へのアグリロード2018

令和元年5月発行

編集発行

宮城県農政部農業振興課

電話 022(211)2837

E-mail:nosin@pref.miyagi.lg.jp
